



ゆうげん 幽玄の竹あかりが飾る初夏の田園

農業や水田に目を向けてほしいと願いをともして
守里ファームに竹×空間が織りなすルミナリエ



守里ファームに浮かび上がった美しい竹あかり(4月下旬に撮影)

シヨン(反映)を見てもらうことで、食を育て、受け継いできた水田と農家に思いをはせてほしいと願って、竹あかりを作りました。これからも、湖光の活動を通して発信していきたいと思っています」と話していました。

ふるさと守山の原風景は「田園」です。

時代の変化で市内の水田が減少していく中、小島町の守里 浩一さん(守里ファーム)が管理する田植え前の田んぼで、竹を活用して竹林保全に取り組む起業家、空間デザイナー、竹細工の達人の4人で結成した「湖光 coco. bamboo art」が、水田の畔に「竹あかり」を作りました。

夜にあかりがともると、水をたたえた田んぼの水面に竹あかりが映りこみ、通行人などが、突然現れた美しい風景に驚き魅了されました。守里さんは「水田のリフレク



半世紀を超えた記念の「つどい」

市スポーツ少年団の団員500人超が入場行進
スポーツを通じて子どもたちの成長を指導

新しい年度の初め、清々しい青空の下、25単位団500人を超える団員たちが集結。第50回 市スポーツ少年団の「つどい」に臨み、市民球場で力強い行進を行うとともに団結と躍動を誓いました。また、交流試合では、同じ競技の他チームや保護者同士も絆を深めました。

スポーツ少年団は、競技の技術や試合で勝つことだけでなく、スポーツを通して「人を育てる」ことも目的としています。

本部長の西澤 功雄さんは、団員の保護者としての関わりをきっかけに約30年スポーツ少年団を支えてきました。その歳月を振り返り、「上の子が下の子の面倒を見ていたり、卒団後も遊びに来たりする姿はともうれしい。本部や団の運営は苦労もありますが、結局、子どもが好きだから続けられるのじゃないかな」と話していました。



青空の下で挙行された「つどい」



市スポーツ少年団
西澤 功雄本部長